

単子葉植物ラン科

ヤチラン



沼田俊三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

本県では八甲田山域のミズゴケ湿原にのみ分布が確認されています。高さが7~8cmで、葉はミズゴケの中に埋もれているので、花穂が出ないと見つけにくい種です。まれに、葉の先に小さいムカゴを生ずることがあります。

谷地菖、高田菖、睡蓮沼、赤水菖、横沼などで記録されていますが、量が非常に少ないです。特殊な環境だけに湿原と一緒に保護した方が良いでしょう。花はそれほど目立つわけではないので、マニアの乱獲だけが危惧されます。

原子

単子葉植物ラン科

サカネラン



細井幸兵衛撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

草丈30cmほどの腐生植物で、汚れた黄白色をしています。莖は太く直立し、上部には密生した多数の花をつけます。

根茎は地中に真っすぐ伸び、肉質で先が上を向いています。この上向きの様子に“逆根”の名が付けました。

北海道と本州と九州に分布しています。県内では全域に渡っていますが株数が少なく、なかなか見られません。

生育地である樹林や低木の草地保全が望まれます。

木村

単子葉植物ラン科

ウチョウラン



兼平瑞夫撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

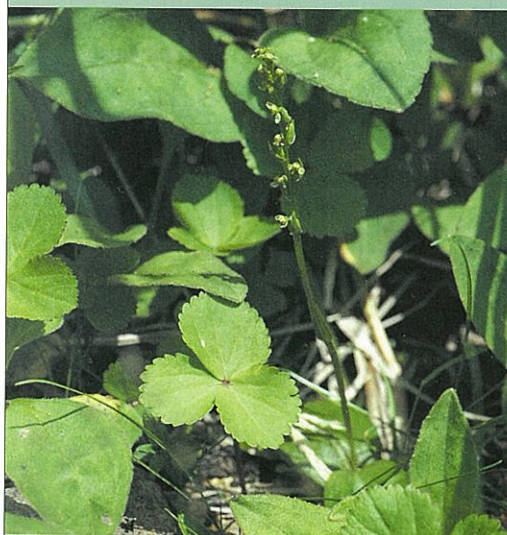
山地の日当たりのよい湿った岩場に生育する多年生の植物で、県内では津軽半島や白神山地などから報告されています。北限は津軽半島です。6～8月頃、茎の先端に紅色の派手な花を一方に傾けて数個咲かせます。類似のラン科植物に比べ、本種は葉脈、茎、子房などに暗紫色の線がみられるという特徴があります。

山野草ブームで乱獲されている植物です。

齋藤

単子葉植物ラン科

タカネトンボ



沼田俊三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

八甲田山で生育するものは高さが10cmくらいです。

1908年には岩木山に産することが報じられましたが近年の詳細は不明です。八甲田山では雪田周辺にまれにみられます。逆川での記録もありますが、北八甲田にも確認されています。

北海道と岩手県北上山地の林内には、30cmほどに伸び、2枚の葉も離れて付き、その花穂も長いものがあります。これはミヤケランと呼びますが、県内では今のところ確認されていません。

原 子

単子葉植物ラン科

トキソウ



木村啓撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草丈15cmほどの多年草で、茎は直立し茎の途中に一葉をつけます。花はトキ色で茎の先端に一個咲かせます。

北海道から九州まで分布していますが、四国と九州では、まれにしか見られません。県内では全域にみられますが、生育地である湿地の消滅が進み、また、観賞用に採取されて、個体数が極端に少なくなっています。

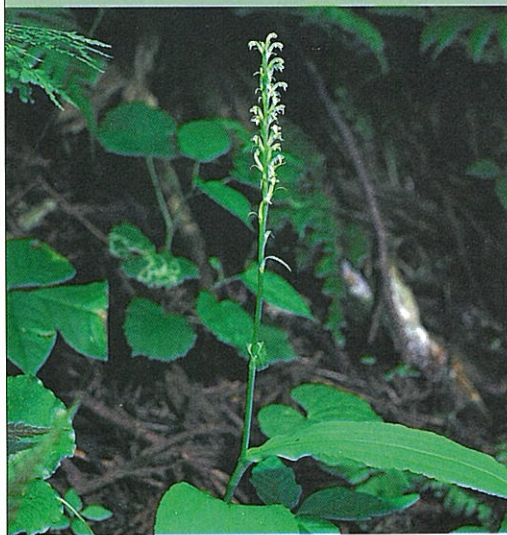
同じ湿地に生育するサワラン（沢蘭）も激減しています。

生育している湿地の保全と採取をしない事が望まれます。

木村

単子葉植物ラン科

イヌマムカゴ



沼田俊三撮影

青森県：A

環境庁絶滅危惧ⅠB類

高さ30cmほどで、山地の林内にまれに見つかります。青森市、弘前市、大鰐町、碓ヶ関村、鱒ヶ沢町などで記録されていますが、一般には量が少ないようです。地味な花なので目につきにくいかもしれません。

イヌマは人名の飯沼に由来しています。

近似種のトンボソウは県内ではごく普通に見られますが、本種はそれよりとても珍しい種です。

原子

(2) 脊椎動物

① 哺乳類

《概要》

青森県にはいったい何種類の哺乳類が生息しているのでしょうか。これについて正確に答えられるだけの資料はありません。青森県と一口に言っても陸と海に分けた場合、陸に生息している哺乳類は私たちの目に触れやすいので比較的詳しく分かります。しかし、海に生息している哺乳類もたくさんあります。たとえば、クジラやイルカの仲間、アザラシの仲間など様々です。青森県は三方を海に囲まれているためにこのような海生哺乳類がたくさん生息しているはずですが。残念ながら詳しい資料がないので今回のレッドデータブックでは取り扱わないことにしました。

一方、陸上の哺乳類と言っても人が飼っていたものが野生化したノイヌやネコも哺乳類です。下北半島では土着のニホンザルとの間に雑種ができる心配があるタイワンザルの生息が問題になっています。最近ではハクビシンという種類が青森県に生息しているのではないかという情報もあります。今回はこうした土着でない哺乳類を検討対象から外しました。こうした移入動物が土着種の生存を脅かしていることは全国的にも大問題になっています。青森県でも常に監視が必要と思います。

今回の選定では比較的近年に絶滅した4種を含めて県内土着種を50種としました。このうち26種を本書で取りあげています。すなわち、半分以上が絶滅か絶滅の危機に瀕している、または、要注意の種類となります。その内訳はヒナコウモリ科13種、イタチ科3種、リス科2種、その他、トガリネズミ科、モグラ科、イヌ科、イノシシ科、シカ科、ヤマネ科、クマ科、オナガザル科各1種となっています。このように県レッドデータブックにリストアップされている種としてはコウモリ類が最も多く、県内土着種17種の中で76%にもなります。このことは環境庁による全国的検討結果とも一致しています。原因としては森林性コウモリの情報があまりにも少ないこと、一方では、森林面積の減少が進行していることなどがあげられます。

青森県は森林が発達する気候帯です。かつては陸上のほぼ全域が森林で被われていたものと考えられます。したがって、そこに生息する全ての哺乳類は基本的には森林に生活を依存している種類です。現在は森林以外の場所で生活している哺乳類であっても、これからの青森県でいつまでも生き続けるためには森林の保全が欠かせません。今以上に絶滅種を増やさず、多様性のある青森県の哺乳類と私たちがいつまでも共生し続けられるように努力しなければいけません。

ネコ目イヌ科

ニホンオオカミ

青森県：EX
環境庁：絶滅

哺乳類



上：別亜種エゾオオカミ

北海道大学農学部博物館所蔵
正法寺（十和田市所蔵）

下：ニホンオオカミの足

日本全体でもどこにも生息していないので、絶滅種となります。標本も完全なものほとんど残っていません。青森県でも江戸時代までは各地に生息していて、ウマなどの家畜が襲われた被害記録が残っています。しかし、明治時代になると急速に減少し、いつの間にか絶滅してしまいました。青森県産の完全な標本は現存しませんが、十和田市のお寺にはニホンオオカミの足が残されていて、専門家による鑑定が行われています。

向山

ネコ目イタチ科

ニホンカワウソ

青森県：E X

環境庁：絶滅危惧ⅠA類

哺乳類



撮影場所：高知県

鍋島昭一撮影

かつては日本全国に広く分布していたのですが、現在は四国の一部に生息している可能性が推測されるだけになりました。青森県内にもかつて生息していたことは各地に残っているカッパの伝説や目撃情報、さらに、長い尾を引きずって歩いた足跡の観察例が残されていることから確実です。しかし、標本や写真などの証拠はありません。

向山

ウシ目イノシシ科

ニホンイノシシ

青森県：E X

環境庁：該当なし



撮影場所：兵庫県

向山満撮影

現在の日本では福島県が自然分布の北限となっていて、青森県には生息していません。しかし、江戸時代の古文書にはたくさんの数が捕獲されたことが書かれています。当時の青森県には有害獣として農家を苦しめるほどたくさん居たのですが、明治時代になると急速に絶滅に向かったものと考えられます。

向山

哺乳類

ウシ目シカ科

ホンドジカ

青森県：E X

環境庁：該当なし



撮影場所：宮城県

向山満撮影

現在の日本では岩手県五葉山が自然分布の北限となっていて、青森県には生息していません。しかし、江戸時代の古文書によると津軽地方、南部地方ともに記録が残っています。県内から比較的新しい目撃情報や死体回収記録があるのですが野生状態で繁殖しているとは考えられません。

向山

モグラ目トガリネズミ科

ニホンカワネズミ

青森県：LP（津軽山地）

環境庁：該当なし



向山満撮影

カワネズミはインド北部のヒマラヤ、カシミールから東南アジア、中国南部、台湾および日本にかけて分布する半水性のトガリネズミの仲間です。

日本産亜種ニホンカワネズミは主に山地の渓流沿いに生息し、手足や耳、尾などに渓流生活に適した特徴があります。渓流を自在に泳ぎ、渓流魚や水生昆虫などをあさって生活しています。県内では山地の渓流であれば、全県的に分布していますが、津軽山地の渓流では生息の記録が少なく、この地域での絶滅が心配されています。

小原

モグラ目モグラ科

シナノミズラモグラ

青森県：C

環境庁：準絶滅危惧



向山満撮影

ミズラモグラは青森県から広島県までの本州にのみ分布する山地性の小型のモグラ(頭胴長10cm前後)で、尾の長さや歯の形などから原始的なモグラとされています。

県産亜種シナノミズラモグラの捕獲記録は少なく、これまでに八甲田山地や岩木山、田子町大黒森、新郷村迷ヶ岱などで15個体が記録されているだけです。森林の比較的肥沃な土壌環境に生息することから、ちょっとした環境の変化が生存の脅威となるので、森林環境をそのまま保全することが大切です。

小原

コウモリ目ヒナコウモリ科

フジホオヒゲコウモリ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



向山満撮影

向山

翼を広げた長さが約21cm、全長が約8cm、体重が6gほどの小さいコウモリです。森林性で県内に広く分布していますが、個体数は多くありません。全国的にも希少種で最近の記録がある都道府県は少ない。飛翔力が弱いので残っている森林を保全することが大切です。

種名について異なる考えがあって、ヒメホオヒゲコウモリと呼ぶ場合もあります。青森県内の古い記録でシナノホオヒゲコウモリとなっている種類は本種と考えられます。

コウモリ目ヒナコウモリ科

カグヤコウモリ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



向山満撮影

向山

翼を広げた長さが約24cm、全長が約9cm、体重が8gほどの小さいコウモリです。全国的にも希少種とされていますが、青森県内には比較的広い地域で確認されています。しかし、フジホオヒゲコウモリよりさらに少なくて珍しい種類です。

樹洞をねぐらとする典型的な森林性コウモリですが、その生態についてはほとんど分かっていません。本種は平賀町の笹やぶから最初に見つかったのでカグヤコウモリと名付けられました。